

ヨーロッパ・アメリカ研究特別演習 A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ研究の展開（2017-1）

2. 授業の目的と概要：

ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・芸術・文化を研究対象とする学生の博士論文作成にむけて、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。

3. 学習の到達目標：

修士論文の成果を発展させた研究報告を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 1 年次学生は研究テーマの確定のため、研究題目発表会に向けた研究報告をおこなう。2 年次学生および 3 年次学生は博士論文の完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた研究報告をおこなう。

1. オリエンテーション
2. 発表（1）
3. 発表（2）
4. 発表（3）
5. ディスカッション（1）
6. 発表（4）
7. 発表（5）
8. 発表（6）
9. ディスカッション（2）
10. 発表（7）
11. 発表（8）
12. 発表（9）
13. ディスカッション（3）
14. 総括（1）
15. 総括（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

研究報告内容と議論への参加度を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 木曜日 14:10～14:40

ヨーロッパ・アメリカ研究特別演習B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ研究の展開（2017-2）

2. 授業の目的と概要：

ヨーロッパ、およびアメリカの文学・歴史・社会・芸術・文化を研究対象とする学生の博士論文作成にむけて、受講生が研究報告をおこない、その報告に関する質疑応答や意見交換を出席者全員でおこなう。

3. 学習の到達目標：

修士論文の成果を発展させた研究報告を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 博士論文の作成ないし完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた研究報告をおこなう。

1. オリエンテーション
2. 発表（1）
3. 発表（2）
4. 発表（3）
5. ディスカッション（1）
6. 発表（4）
7. 発表（5）
8. 発表（6）
9. ディスカッション（2）
10. 発表（7）
11. 発表（8）
12. 発表（9）
13. ディスカッション（3）
14. 総括（1）
15. 総括（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

研究報告内容と議論への参加度を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 木曜日 14:10～14:40

ヨーロッパ・アメリカ研究特別研究A

曜日・講時：前期 月曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法（2017-1）

2. 授業の目的と概要：

ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法について指導教員と意見交換を交わすことにより、修士論文で得た新たな知見をふまえ、自らの研究テーマをさらに掘り下げて追究できるようにする。

3. 学習の到達目標：

指導教員との意見交換を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 1年次学生は研究テーマの確定のため、2年次学生および3年次学生は博士論文の作成、完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた指導をおこなう。

1. オリエンテーション

2. 研究テーマに関する報告と討論（1）

3. 研究テーマに関する報告と討論（2）

4. 研究テーマに関する報告と討論（3）

5. 研究テーマに関する報告と討論（4）

6. 博士論文の構成に関する報告と討論（1）

7. 博士論文の構成に関する報告と討論（2）

8. 博士論文の構成に関する報告と討論（3）

9. 博士論文の構成に関する報告と討論（4）

10. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（1）

11. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（2）

12. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（3）

13. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（4）

14. 総括（1）

15. 総括（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

各受講生の研究の進捗状況および研究の内容の深化を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 授業開始前の30分間

ヨーロッパ・アメリカ研究特別研究B

曜日・講時：後期 月曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法（2017-2）

2. 授業の目的と概要：

ヨーロッパ・アメリカ研究の学知と方法について指導教員と意見交換を交わすことにより、修士論文で得た新たな知見をふまえ、自らの研究テーマをさらに掘り下げて追究できるようにする。

3. 学習の到達目標：

指導教員との意見交換を繰り返しおこなうことによって、完成度の高い博士論文を作成する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 1年次学生は研究テーマの確定のため、2年次学生および3年次学生は博士論文の作成、完成に向け、研究科の学位取得スケジュールに合わせた指導をおこなう。

1. オリエンテーション

2. 研究テーマに関する報告と討論（1）

3. 研究テーマに関する報告と討論（2）

4. 研究テーマに関する報告と討論（3）

5. 研究テーマに関する報告と討論（4）

6. 博士論文の構成に関する報告と討論（1）

7. 博士論文の構成に関する報告と討論（2）

8. 博士論文の構成に関する報告と討論（3）

9. 博士論文の構成に関する報告と討論（4）

10. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（1）

11. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（2）

12. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（3）

13. 博士論文の各章の内容に関する報告と討論（4）

14. 総括（1）

15. 総括（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

各受講生の研究の進捗状況および研究の内容の深化を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 授業開始前の30分間

ヨーロッパ・アメリカ研究特別講義A

曜日・講時：前期 火曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ文化の総合的・学際的把握（2017-1）

2. 授業の目的と概要：

それぞれ文学・歴史学・文化人類学・芸術学を専門とする教員によるオムニバス方式の講義をつうじて、ヨーロッパ・アメリカ地域が個別的に直面してきた諸問題を比較検討することにより、広い意味でのヨーロッパ・アメリカ文化の特質を解明する。

3. 学習の到達目標：

総合的、学際的なアプローチをつうじて、過去および現在におけるヨーロッパ・アメリカ文化の特質を把握すること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 ヨーロッパ・アメリカ文化に関する共通のテーマのもとに、各教員の専門性を生かしたオムニバス方式でおこなう。

1. オリエンテーション

2. 講義（1）

3. 講義（2）

4. 講義（3）

5. 講義（4）

6. 講義（5）

7. 講義（6）

8. 講義（7）

9. 講義（8）

10. 講義（9）

11. 講義（10）

12. 講義（11）

13. 講義（12）

14. 総括と復習（1）

15. 総括と復習（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

各教員が課すレポートを総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 火曜日 15:50～16:20

ヨーロッパ・アメリカ研究特別講義B

曜日・講時：後期 火曜日 5講時 113講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：ヨーロッパ・アメリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

ヨーロッパ・アメリカ文化の総合的・学際的把握（2017-2）

2. 授業の目的と概要：

それぞれ文学・歴史学・文化人類学・芸術学を専門とする教員によるオムニバス方式の講義をつうじて、ヨーロッパ・アメリカ地域が個別的に直面してきた諸問題を比較検討することにより、広い意味でのヨーロッパ・アメリカ文化の特質を解明する。

3. 学習の到達目標：

総合的、学際的なアプローチをつうじて、過去および現在におけるヨーロッパ・アメリカ文化の特質を把握すること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 ヨーロッパ・アメリカ文化に関する共通のテーマのもとに、各教員の専門性を生かしたオムニバス方式でおこなう。

1. オリエンテーション

2. 講義（1）

3. 講義（2）

4. 講義（3）

5. 講義（4）

6. 講義（5）

7. 講義（6）

8. 講義（7）

9. 講義（8）

10. 講義（9）

11. 講義（10）

12. 講義（11）

13. 講義（12）

14. 総括と復習（1）

15. 総括と復習（2）

試験 レポート等

5. 成績評価方法：

各教員が課すレポートを総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

適宜、授業のなかで示す。

7. 授業時間外学習：

授業中に課題等を随時指示する。

8. その他：

オフィスアワー： 火曜日 15:50～16:20

アジア・アフリカ研究特別演習A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の現状と課題A

2. 授業の目的と概要：

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標：

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題A1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題A2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題A3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題A4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題A5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題A6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題A7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題A8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題A9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題A10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題A11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題A12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題A13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題A14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題A15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法：

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

資料は発表者が作成・配布する。
参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

アジア・アフリカ研究特別演習 B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の現状と課題 B

2. 授業の目的と概要：

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標：

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法：

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

資料は発表者が作成・配布する。
参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

アジア・アフリカ研究特別研究A

曜日・講時：前期 木曜日 5講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の現状と課題A

2. 授業の目的と概要：

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標：

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A 9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題 A15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法：

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

資料は発表者が作成・配布する。
参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

アジア・アフリカ研究特別研究B

曜日・講時：後期 木曜日 5講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の現状と課題B

2. 授業の目的と概要：

学生各自がそれぞれの研究テーマに即して報告・発表を行い、それをめぐって参加者全員が分析・討論を行う。随時、学生のテーマに応じて、数名ずつの分科会方式を採用する。

3. 学習の到達目標：

院生が自らの研究を日本内外の研究状況と比較検討し、その研究テーマの斬新性、意義、その分析手法の特徴などを発表する。他の学生は発表についての確に理解し批評する能力を養う。その上に立って、とくに研究課題の設定とその分析の手法、論理的展開の手法、論文の作成と研究成果の発表方法などを習得する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）を中心に行う。

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を中心に行う。

1. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 1
2. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 2
3. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 3
4. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 4
5. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 5
6. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 6
7. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 7
8. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 8
9. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B 9
10. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B10
11. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B11
12. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B12
13. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B13
14. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B14
15. アジア・アフリカ研究の現状と課題 B15

試験 授業内容・方法と進度予定：学生の研究報告とこれに関する討論（質疑・応答）から、

- 1) 研究資料の分析・批判的検討の方法
- 2) レジュメの作成、発表の方法、討議の仕方
- 3) 論文（論文発表である場合）

を試験する。

5. 成績評価方法：

演習での発表・報告と討論の内容によって、総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

資料は発表者が作成・配布する。
参考書は演習の中で随時指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

アジア・アフリカ研究特別講義A

曜日・講時：前期 木曜日 3講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の諸問題 A

2. 授業の目的と概要：

アジア・アフリカ、とくに中国とイスラーム圏の政治、社会、文化の特徴とその変容過程について、主要な論文、著書の精読を通じて批判的に理解することを目的とする。

3. 学習の到達目標：

対象地域の現在の政治、社会、文化を理解する上で基本的かつ重要なファクターを概観し、かつこれらを現実の社会的文脈の中に批判的に検証する学問的な効果やスキルの修得を目指す。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 この分野における碩学の意見、考え方を批判的に理解・検討することの重要性を理解する。

1. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 1
2. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 2
3. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 3
4. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 4
5. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 5
6. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 6
7. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 7
8. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 8
9. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 9
10. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 10
11. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 11
12. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 12
13. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 13
14. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 14
15. アジア・アフリカ研究の諸問題 A 15

試験 報告者による報告および報告内容に関して、教員と学生が討論を行う。

5. 成績評価方法：

授業での報告と討論への参加を総合的に評価して行う。

6. 教科書および参考書：

適宜、プリントを配布。講義の中で適宜指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

アジア・アフリカ研究特別講義B

曜日・講時：後期 木曜日 3講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：アジア・アフリカ研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

アジア・アフリカ研究の諸問題 B

2. 授業の目的と概要：

アジア・アフリカ、とくに中国とイスラーム圏の政治、社会、文化の特徴とその変容過程について、主要な論文、著書の精読を通じて批判的に理解することを目的とする。

3. 学習の到達目標：

対象地域の現在の政治、社会、文化を理解する上で基本的かつ重要なファクターを概観し、かつこれらを現実の社会的文脈の中に批判的に検証する学問的な効果やスキルの修得を目指す。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 この分野における碩学の意見、考え方を批判的に理解・検討することの重要性を理解する。

1. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 1
2. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 2
3. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 3
4. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 4
5. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 5
6. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 6
7. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 7
8. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 8
9. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 9
10. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 10
11. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 11
12. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 12
13. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 13
14. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 14
15. アジア・アフリカ研究の諸問題 B 15

試験 報告者による報告および報告内容に関して、教員と学生が討論を行う。

5. 成績評価方法：

授業での報告と討論への参加を総合的に評価して行う。

6. 教科書および参考書：

適宜、プリントを配布。講義の中で適宜指示する。

7. 授業時間外学習：

レジュメの準備、討論の内容整理が必須です。

8. その他：

とくになし。

国際日本研究特別演習 A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS707J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の実践

2. 授業の目的と概要：

受講者が各自の研究テーマで研究発表を行い、それについて参加者全員で討議する。国際日本研究に関わる研究を行う上で必要とされる方法論と研究発表の仕方を、各人の研究テーマに即して検討する。

3. 学習の到達目標：

国際日本研究に関わる資料の扱い方、論の展開の仕方、発表の仕方、発表レジュメ/ハンドアウトの書き方について学ぶ。また、他の受講者の発表について討議することで、他者の論の論点を把握し、批評する能力を高める。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 発表者はあらかじめ演習参加者に配布した発表レジュメ/ハンドアウトにもとづき各自の研究テーマで発表を行なう。その後、全員で発表内容や発表の仕方について質疑応答、意見交換を行なう。

1. 第1回 ガイダンス
2. 第2回 発表および討議
3. 第3回 発表および討議
4. 第4回 発表および討議
5. 第5回 発表および討議
6. 第6回 発表および討議
7. 第7回 発表および討議
8. 第8回 発表および討議
9. 第9回 発表および討議
10. 第10回 発表および討議
11. 第11回 発表および討議
12. 第12回 発表および討議
13. 第13回 発表および討議
14. 第14回 発表および討議
15. 第15回 発表および討議

試験 試験は行なわないが、発表レジュメ/ハンドアウトをもとに、討議の内容にもとづく検討結果やその後の研究成果を反映させた期末レポートの提出を課す。

5. 成績評価方法：

受講者の発表内容、討議への参加、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて、教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

発表の準備を行なうこと、毎回の授業の前に発表レジュメ/ハンドアウトを読んで要点を把握し、質問やコメントを考慮しておくこと、期末レポートをまとめること

8. その他：

本授業においては、受講者の積極的な発言が求められる。

国際日本研究特別演習B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS707J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の実践

2. 授業の目的と概要：

受講者が各自の研究テーマで研究発表を行い、それについて参加者全員で討議する。国際日本研究に関わる研究を行う上で必要とされる方法論と研究発表の仕方を、各人の研究テーマに即して検討する。

3. 学習の到達目標：

国際日本研究に関わる資料の扱い方、論の展開の仕方、発表の仕方、発表レジュメ/ハンドアウトの書き方について学ぶ。また、他の受講者の発表について討議することで、他者の論の論点を把握し、批評する能力を高める。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 発表者はあらかじめ演習参加者に配布した発表レジュメ/ハンドアウトにもとづき各自の研究テーマで発表を行なう。その後、全員で発表内容や発表の仕方について質疑応答、意見交換を行なう。

1. ガイダンス

2. 発表および討議

3. 発表および討議

4. 発表および討議

5. 発表および討議

6. 発表および討議

7. 発表および討議

8. 発表および討議

9. 発表および討議

10. 発表および討議

11. 発表および討議

12. 発表および討議

13. 発表および討議

14. 発表および討議

15. 発表および討議

試験 試験は行なわないが、発表レジュメ/ハンドアウトをもとに、討議の内容にもとづく検討結果やその後の研究成果を反映させた期末レポートの提出を課す。

5. 成績評価方法：

受講者の発表内容、討議への参加、期末レポートによる。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて、教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

発表の準備を行なうこと、毎回の授業の前に発表レジュメ/ハンドアウトを読んで要点を把握し、質問やコメントを考えておくこと、期末レポートをまとめること。

8. その他：

レジュメ/ハンドアウトは、発表する週の月曜日までに提出のこと。

本授業においては、受講者の積極的な発言が求められる。

国際日本研究特別研究A

曜日・講時：前期 火曜日 6 講時 107 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS708J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の技能

2. 授業の目的と概要：

受講者が指導教員の指導を受けながら国際日本研究に関わる各自の研究テーマで研究を行うためのスキルを身につける。

3. 学習の到達目標：

研究成果の適切なまとめ方、効果的な発信の仕方を学び、最終的には自立して研究を推進する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 受講者が指導教員と相談の上で学会での発表や学術雑誌への投稿などの研究成果公表に関する具体的な目的を設定し、それに向けてスケジュールを決め、目的を達成する上で必要な指導を受けながら研究を推進していく。

1. ガイダンス

2. 研究成果公表に関する目的の設定、スケジュール決定

3. 資料収集の方法（以下、順不同）

4. 資料収集の方法

5. 先行研究の整理の仕方

6. 研究課題の設定の仕方

7. 資料分析の方法

8. 資料分析の方法

9. 序論の書き方

10. 本論の書き方

11. 本論の書き方

12. 結論の書き方

13. 注／参考文献の書き方

14. 口頭発表の仕方

15. まとめ

試験 試験は行なわないが、随時、学会等での発表レジュメ/ハンドアウトや、学術雑誌等への投稿原稿の提出を課す。

5. 成績評価方法：

受講者の授業参加・研究への取り組み（50%）、研究の進捗度・研究成果の発信の度合い（50%）による。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて、教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で受けた指導にもとづき、主として授業時間外に自分で研究を行なう。

8. その他：

受講者は、具体的な目的を設定し、主体的に研究を進めていくことが求められる。

国際日本研究特別研究B

曜日・講時：後期 火曜日 6 講時 107 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS708J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の技能

2. 授業の目的と概要：

受講者が指導教員の指導を受けながら国際日本研究に関わる各自の研究テーマで研究を行うためのスキルを身につける。

3. 学習の到達目標：

研究成果の適切なまとめ方、効果的な発信の仕方を学び、最終的には自立して研究を推進する能力を身につけること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 受講者が指導教員と相談の上で学会での発表や学術雑誌への投稿などの研究成果公表に関する具体的な目的を設定し、それに向けてスケジュールを決め、目的を達成する上で必要な指導を受けながら研究を推進していく。

1. ガイダンス

2. 研究成果公表に関する目的の設定、スケジュール決定

3. 資料収集の方法（以下、順不同）

4. 資料収集の方法

5. 先行研究の整理の仕方

6. 研究課題の設定の仕方

7. 資料分析の方法

8. 資料分析の方法

9. 序論の書き方

10. 本論の書き方

11. 本論の書き方

12. 結論の書き方

13. 注／参考文献の書き方

14. 口頭発表の仕方

15. まとめ

試験 試験は行なわないが、随時、学会等での発表レジュメ/ハンドアウトや、学術雑誌等への投稿原稿の提出を課す。

5. 成績評価方法：

受講者の授業参加・研究への取り組み（50%）、研究の進捗度・研究成果の発信の度合い（50%）による。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて、教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で受けた指導にもとづき、主として授業時間外に自分で研究を行なう。

8. その他：

受講者は、具体的な目的を設定し、主体的に研究を進めていくことが求められる。

国際日本研究特別講義A

曜日・講時：前期 木曜日 3講時 207講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS709J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の方法

2. 授業の目的と概要：

国際日本研究に関わる様々な問題を、各教員が専門とする分野で考察し、研究の実例を通して研究の視点、方法を提示する。

3. 学習の到達目標：

様々な観点からの、また様々な研究方法による国際日本研究の実践例を通して、国際日本研究に関する幅広い知識を得るとともに、研究を行なう上での専門的技能を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 国際日本研究講座の教員が交替で、それぞれの専門とする分野についての講義を行なう。

1. ガイダンス

2. 講義（1） 日欧文芸に見る異人像に関する講義（以下、順不同）

3. 講義（2） 日欧文芸に見る異人像に関する講義

4. 講義（3） 『源氏物語』の受容に関する講義

5. 講義（4） 『源氏物語』の受容に関する講義

6. 講義（5） 博物学に関する異文化交流史的見地からの講義

7. 講義（6） 博物学に関する異文化交流史的見地からの講義

8. 講義調整日

9. 講義（7） 日本における歴史叙述思想に関する講義

10. 講義（8） 日本における歴史叙述思想に関する講義

11. 講義（9） 現代日本のジェンダー意識に関する講義

12. 講義（10） 現代日本のジェンダー意識に関する講義

13. 講義（11） 日韓比較文学に関する講義

14. 講義（12） 日韓比較文学に関する講義

15. 講義（13） 総括

試験 試験は行なわないが、期末レポートを課す。

5. 成績評価方法：

出席・平常点（50%）および期末レポート（50%）による。

6. 教科書および参考書：

各教員が教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

講義担当教員が課題を出した場合はその課題を行なう。一人の教員の講義を選び、その講義に関するテーマで期末レポートを書く。

8. その他：

上に記した各回の講義のテーマは変更になることがある。

レジュメ/ハンドアウトは、発表する週の月曜日までに提出のこと。

国際日本研究特別講義B

曜日・講時：後期 木曜日 3講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際日本研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-ARS709J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際日本研究の方法

2. 授業の目的と概要：

国際日本研究に関わる様々な問題を、各教員が専門とする分野で考察し、研究の実例を通して研究の視点、方法を提示する。

3. 学習の到達目標：

様々な観点からの、また様々な研究方法による国際日本研究の実践例を通して、国際日本研究に関する幅広い知識を得るとともに、研究を行なう上での専門的技能を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 国際日本研究講座の教員が交替で、それぞれの専門とする分野についての講義を行なう。

1. ガイダンス

2. 講義（1） 日欧文芸に見る異人像に関する講義（以下、順不同）

3. 講義（2） 日欧文芸に見る異人像に関する講義

4. 講義（3） 『源氏物語』の受容に関する講義

5. 講義（4） 『源氏物語』の受容に関する講義

6. 講義（5） 博物学に関する異文化交流史的見地からの講義

7. 講義（6） 博物学に関する異文化交流史的見地からの講義

8. 予備日

9. 講義（7） 日本における歴史叙述思想に関する講義

10. 講義（9） 日本における歴史叙述思想に関する講義

11. 講義（10） 現代日本のジェンダー意識に関する講義

12. 講義（11） 現代日本のジェンダー意識に関する講義

13. 講義（12） 日韓比較文学に関する講義

14. 講義（13） 日韓比較文学に関する講義

15. 講義（14） 総括

試験 試験は行なわないが、期末レポートを課す。

5. 成績評価方法：

出席・平常点（50%）および期末レポート（50%）による。

6. 教科書および参考書：

各教員が教室で指示する。

7. 授業時間外学習：

講義担当教員が課題を出した場合はその課題を行なう。一人の教員の講義を選び、その講義に関するテーマで期末レポートを書く。

8. その他：

上に記した各回の講義のテーマは変更になることがある。

国際政治経済論特別演習 A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 207 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係研究の実践 A

2. 授業の目的と概要：

受講生がそれぞれの研究テーマに即して、先行研究を理解し、その問題点を探り、自らの問題意識に基づく研究の進捗状況と成果を報告、発表し、またそれをめぐり演習参加者が全員で討論することにより問題の理解を深め、研究の更なる発展を目指す。

3. 学習の到達目標：

受講生がそれぞれの年次、研究テーマに応じて、

- ①先行研究の文献を理解すること、
- ②問題の所在を明確に把握すること、
- ③自らの分析を整理し報告する能力を養うこと、
- ④他者の報告に関して的確なコメントや助言等を与える能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 受講生による自らの研究や先行研究の内容の報告、それに関する受講者、教員を含めたグループ討論、教員による研究指導を通して、自らの研究の意義と方向性を確立する。博士論文提出が近い受講生は、その全容の報告とそれについてのコメントと討論を交える。

- 1. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 2. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 3. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 4. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 5. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 6. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 7. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 8. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 9. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 10. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 11. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 12. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 13. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 14. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 15. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。

試験 必要ならば課す。

5. 成績評価方法：

出席、各自の研究報告の内容、討論への取り組み、他者の報告へのアドバイスなどを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて演習の中で参考文献を指定する。

7. 授業時間外学習：

博士論文を完成させるために必要な研究作業を行うこと。

8. その他：

毎回の出席および討論への積極的参加が必須である。

国際政治経済論特別演習 B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 207 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係研究の実践 B

2. 授業の目的と概要：

受講生がそれぞれの研究テーマに即して、先行研究を理解し、その問題点を探り、自らの問題意識に基づく研究の進捗状況と成果を報告、発表し、またそれをめぐり演習参加者が全員で討論することにより問題の理解を深め、研究の更なる発展を目指す。

3. 学習の到達目標：

受講生がそれぞれの年次、研究テーマに応じて、

- ①先行研究の文献を理解すること、
- ②問題の所在を明確に把握すること、
- ③自らの分析を整理し報告する能力を養うこと、
- ④他者の報告に関して的確なコメントや助言等を与える能力を養うことを目標とする。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 受講生による自らの研究や先行研究の内容の報告、それに関する受講者、教員を含めたグループ討論、教員による研究指導を通して、自らの研究の意義と方向性を確立する。博士論文提出が近い受講生は、その全容の報告とそれについてのコメントと討論を交える。

- 1. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 2. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 3. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 4. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 5. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 6. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 7. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 8. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 9. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 10. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 11. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 12. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 13. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 14. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。
- 15. 各自の研究報告、関連する文献の報告、研究分野の展望、グループ討論、教員による研究指導。

試験 必要ならば課す。

5. 成績評価方法：

出席、各自の研究報告の内容、討論への取り組み、他者の報告へのアドバイスなどを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて演習の中で参考文献を指定する。

7. 授業時間外学習：

博士論文を完成させるために必要な研究作業を行うこと。

8. その他：

毎回の出席および討論への積極的参加が必須である。

国際政治経済論特別研究A

曜日・講時：前期 火曜日 5講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係の応用研究 A

2. 授業の目的と概要：

国際政治関係、国際経済関係をテーマにした研究を行なう受講生に対しての研究指導。

3. 学習の到達目標：

受講生各自の研究が既に到達した進捗段階から更に一段階進み、その結果を論文としてまとめること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導を行い、研究の方向性を明確化する。

1. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
2. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
3. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
4. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
5. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
6. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
7. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
8. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
9. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
10. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
11. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
12. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
13. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
14. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
15. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。

試験 なし。

5. 成績評価方法：

研究の進捗度合いと研究結果をまとめた論文の完成度合い。

6. 教科書および参考書：

特になし。

7. 授業時間外学習：

研究作業と必要な分析手法の習得。

8. その他：

相談の上決めた研究方針に従って根気よく研究に取り組むことが必要である。

国際政治経済論特別研究B

曜日・講時：後期 火曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係の応用研究 B

2. 授業の目的と概要：

国際政治関係、国際経済関係をテーマにした研究を行なう受講生に対しての研究指導。

3. 学習の到達目標：

受講生各自の研究が既に到達した進捗段階から更に一段階進み、その結果を論文としてまとめること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導を行い、研究の方向性を明確化する。

1. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
2. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
3. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
4. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
5. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
6. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
7. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
8. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
9. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
10. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
11. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
12. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
13. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
14. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。
15. 研究内容に関する相談、アドヴァイス、指導。

試験 なし。

5. 成績評価方法：

研究の進捗度合いと研究結果をまとめた論文の完成度合い。

6. 教科書および参考書：

特になし。

7. 授業時間外学習：

研究作業と必要な分析手法の習得。

8. その他：

相談の上決めた研究方針に従って根気よく研究に取り組むことが必要である。

国際政治経済学特別講義A

曜日・講時：前期 木曜日 5講時 207講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係研究のフロンティア A

2. 授業の目的と概要：

国際政治関係、国際経済関係に関する学術研究のフロンティアを紹介する。

3. 学習の到達目標：

国際政治関係、国際経済関係の先端的な研究を知り、受講生各自が自らの研究の位置づけを明確にし、各自の研究の幅を拡張し、内容を深化する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 講義、実習、輪講などによる。

1. 講義、実習、輪講など。
2. 講義、実習、輪講など。
3. 講義、実習、輪講など。
4. 講義、実習、輪講など。
5. 講義、実習、輪講など。
6. 講義、実習、輪講など。
7. 講義、実習、輪講など。
8. 講義、実習、輪講など。
9. 講義、実習、輪講など。
10. 講義、実習、輪講など。
11. 講義、実習、輪講など。
12. 講義、実習、輪講など。
13. 講義、実習、輪講など。
14. 講義、実習、輪講など。
15. 講義、実習、輪講など。

試験 必要ならば課す。

5. 成績評価方法：

最前線での研究論文を展望（サーベイ）したレポートの内容による。

6. 教科書および参考書：

なし。

7. 授業時間外学習：

関連書籍と論文の精読。

8. その他：

自ら研究論文を広く読みこなし、研究分野に関する視野を広げる意識が必要である。

国際政治経済学特別講義B

曜日・講時：後期 木曜日 5講時 207講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際政治経済論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-IPE703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際政治経済関係研究のフロンティア B

2. 授業の目的と概要：

国際政治関係、国際経済関係に関する学術研究のフロンティアを紹介する。

3. 学習の到達目標：

国際政治関係、国際経済関係の先端的な研究を知り、受講生各自が自らの研究の位置づけを明確にし、各自の研究の幅を拡張し、内容を深化する。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 講義、実習、輪講などによる。

1. 講義、実習、輪講など。
2. 講義、実習、輪講など。
3. 講義、実習、輪講など。
4. 講義、実習、輪講など。
5. 講義、実習、輪講など。
6. 講義、実習、輪講など。
7. 講義、実習、輪講など。
8. 講義、実習、輪講など。
9. 講義、実習、輪講など。
10. 講義、実習、輪講など。
11. 講義、実習、輪講など。
12. 講義、実習、輪講など。
13. 講義、実習、輪講など。
14. 講義、実習、輪講など。
15. 講義、実習、輪講など。

試験 必要ならば課す。

5. 成績評価方法：

最前線での研究論文を展望（サーベイ）したレポートの内容による。

6. 教科書および参考書：

なし。

7. 授業時間外学習：

関連書籍と論文の精読。

8. その他：

自ら研究論文を広く読みこなし、研究分野に関する視野を広げる意識が必要である。

国際環境資源政策論特別演習 A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 107 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OS0704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際環境資源政策論特別演習 A
Special Seminar of International Environmental Resource Policy A

2. 授業の目的と概要：

国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。

This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based

3. 学習の到達目標：

明確な研究テーマを設定し、研究の背景と問題意識を多角的に検証すること。

先行研究を比較考察し、研究の目的と独創性、研究意義を明確にすること。

適切な研究分析手法を身につけること。

Define each research theme.

Analyze research background and problem consciousness from diversified standpoints.

Clarify research goal, originality and significance

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. 授業の概要、実施計画の説明

Introduction

2. 研究の背景と必要性の考察

Consideration of Research Background and Necessity

3. 先行研究のサーベイ I

Survey of Previous Studies I

4. 先行研究のサーベイ II

Survey of Previous Studies II

5. 環境科学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on Environmental Science Research

6. 環境社会学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on Environmental Sociology Research

7. 国際協力学分野の学術論文講読・発表

Reading and Presentation on International Cooperation Research

8. 国際環境資源政策論の研究手法 I

Research Approach on International Environmental Resource Policy I

9. 国際環境資源政策論の研究手法 II

Research Approach on International Environmental Resource Policy II

10. 国際環境資源政策論の研究手法 III

Research Approach on International Environmental Resource Policy III

11. 研究仮説及びシナリオの設定 I

Research Hypothesis and Scenario Setting I

12. 研究仮説及びシナリオの設定 II

Research Hypothesis and Scenario Setting II

13. 事例研究発表 I

Presentation for Case Study I

14. 事例研究発表 II

Presentation for Case Study II

15. 事例研究発表 III

Presentation for Case Study III

試験 -

5. 成績評価方法：

発表内容（発表資料を含む）50%、出席 20%、授業への参加 30%

Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Attitude in Class:30%

6. 教科書および参考書：

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

Will be introduced the list of references implement a timely in the class.

7. 授業時間外学習：

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

Attend related research seminars and workshop to improve own research capability.

8. その他：

-

国際環境資源政策論特別演習 B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 107 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OS0704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際環境資源政策論特別演習 B
Special Seminar of International Environmental Resource Policy B

2. 授業の目的と概要：

国際環境資源政策論分野の研究を行っている大学院生の研究活動に対し、幅広い研究視点にもとづいたアドバイスを与え、研究方法の確立と研究発表能力向上のための研究指導を行う。また、各自の研究テーマにおける研究背景と問題意識を具体化し、研究目的を明確にする。

This course gives useful advices to graduate students for the field of international environmental resource policy research based

3. 学習の到達目標：

国際環境資源政策論分野における高度の分析ツールを習得し、理論モデル及び事例研究分析に応用できること。

事例研究、シナリオ分析に必要な社会調査方法を考察し、各自の研究分析方法を明確にすること。

国際学会の研究発表ができる論文作成、発表スキルを身につけること。

Acquire High Research Methods of Analysis on International Environmental Resource Policy.

Apply These Methods to Theoretic

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. 授業の概要、実施計画の説明

Introduction

2. 関連分野の理論モデル考察 I

Consideration of Theoretic Model on Related Researches I

3. 関連分野の理論モデル考察 II

Consideration of Theoretic Model on Related Researches II

4. 関連分野の理論モデル考察 III

Consideration of Theoretic Model on Related Researches III

5. 現地調査及びインタビュー調査方法 I

Field Study and Interview Research Method I

6. 現地調査及びインタビュー調査方法 II

Field Study and Interview Research Method II

7. 国際比較分析方法 I

Method of International Comparative Analysis I

8. 国際比較分析方法 II

Method of International Comparative Analysis II

9. 国際比較分析方法 III

Method of International Comparative Analysis III

10. 研究仮説の設定、事例研究の対象と範囲設定 I

Research Hypothesis, Object and Range Setting I

11. 研究仮説の設定、事例研究の対象と範囲設定 II

Research Hypothesis, Object and Range Setting II

12. シナリオ設定、シミュレーション分析方法

Scenario Setting, Simulation Analysis Method

13. 事例研究発表 I

Presentation for Case Study I

14. 事例研究発表 II

Presentation for Case Study II

15. 事例研究発表 III

Presentation for Case Study III

試験 -

5. 成績評価方法：

発表内容（発表資料を含む）50%、出席 20%、授業への参加 30%

Presentation, including Presentation Materials:50%, Class Attendance:20%, Attitude in Class:30%

6. 教科書および参考書：

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

Will be introduced the list of references implement a timely in the class.

7. 授業時間外学習：

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

Attend related research seminars and workshop to improve own research capability.

8. その他：

-

国際環境資源政策論特別研究A

曜日・講時：前期 木曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OS0705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際環境資源政策論特別研究A

2. 授業の目的と概要：

国際環境システム論、国際資源政策論、地域・都市計画学などに関連する社会・環境問題をテーマに最新の研究文献を輪読し、幅広い議論を行う。具体的な事例を挙げて、国内外の学会、研究シンポジウムにおいて議論できる高度の専門知識を身につける。

3. 学習の到達目標：

具体的な研究テーマを設定し、研究の背景と必要性、研究仮説を多角的に検証できること。
最新の学術研究の事例を比較分析し、当該研究の長所と短所を明らかにすること。
高度の研究分析手法を身につけ、論理的な議論ができること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. 授業の概要、実施計画の説明
2. 研究文献講読Ⅰ（国際環境システム論）
3. 研究文献講読Ⅱ（国際資源政策論）
4. 研究文献講読Ⅲ（地域・都市計画学）
5. 最新の研究動向把握Ⅰ（国際環境システム論）
6. 最新の研究動向把握Ⅱ（国際資源政策論）
7. 最新の研究方向把握Ⅲ（地域・都市計画学）
8. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅰ
9. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅱ
10. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅲ
11. 研究発表の要旨及び学術論文作成の方法Ⅰ
12. 研究発表の要旨及び学術論文作成の方法Ⅱ
13. 課題研究発表Ⅰ
14. 課題研究発表Ⅱ
15. 課題研究発表Ⅲ

試験 -

5. 成績評価方法：

発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への参加30%

6. 教科書および参考書：

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

7. 授業時間外学習：

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

8. その他：

-

国際環境資源政策論特別研究B

曜日・講時：後期 木曜日 5講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OS0705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

国際環境資源政策論特別研究B

2. 授業の目的と概要：

国際環境システム論、国際資源政策論、地域・都市計画学などに関連する社会・環境問題をテーマに最新の研究文献を輪読し、幅広い議論を行う。具体的な事例を挙げて、国内外の学会、研究シンポジウムにおいて議論できる高度の専門知識を身につける。

3. 学習の到達目標：

具体的な研究テーマを設定し、研究の背景と必要性、研究仮説を多角的に検証できること。
最新の学術研究の事例を比較分析し、当該研究の長所と短所を明らかにすること。
高度の研究分析手法を身につけ、論理的な議論ができること。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. 授業の概要、実施計画の説明
2. 研究文献講読Ⅰ（国際環境システム論）
3. 研究文献講読Ⅱ（国際資源政策論）
4. 研究文献講読Ⅲ（地域・都市計画学）
5. 最新の研究動向把握Ⅰ（国際環境システム論）
6. 最新の研究動向把握Ⅱ（国際資源政策論）
7. 最新の研究方向把握Ⅲ（地域・都市計画学）
8. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅰ
9. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅱ
10. 国際環境資源政策論の研究手法Ⅲ
11. 研究発表の要旨及び学術論文作成の方法Ⅰ
12. 研究発表の要旨及び学術論文作成の方法Ⅱ
13. 課題研究発表Ⅰ
14. 課題研究発表Ⅱ
15. 課題研究発表Ⅲ

試験 -

5. 成績評価方法：

発表内容（発表資料を含む）50%、出席20%、授業への参加30%

6. 教科書および参考書：

特になし。適宜参考文献リストを配布する予定

7. 授業時間外学習：

自主ゼミ、関連研究会などに出席し、研究分析スキルを高めること。

8. その他：

-

環境資源政策論特別講義A

曜日・講時：前期 火曜日 3講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 佐藤 正弘

科目ナンバリング：KIC-OS0706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

Advanced Lecture on Environment and Resources Policy A

2. 授業の目的と概要：

This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the literature and cases that are important in research on environment and resources policy. The literature and cases will be selected based on lecturers' suggestions or

3. 学習の到達目標：

Students are expected to broaden their perspectives and methodologies for research on environment and resources policy. In particular, they will strengthen interdisciplinary point of view by deepening their understandings on broader topics including the f

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. Introduction
2. Basic literature
3. Basic literature
4. Basic literature
5. Selection of cases and research topics
6. Comparative analysis of related literature
7. Comparative analysis of related literature
8. Comparative analysis of related literature
9. Interim presentations on case studies
10. Comparative analysis of related literature
11. Comparative analysis of related literature
12. Comparative analysis of related literature
13. Presentations
14. Presentations
15. Presentations

試験 -

5. 成績評価方法：

Participation (20%), Presentation (30%), Term paper (50%)

6. 教科書および参考書：

Reference lists will be shown in the class as needed.

7. 授業時間外学習：

Students are encouraged to participate in relevant workshops, symposiums, or academic conferences.

8. その他：

環境資源政策論特別講義B

曜日・講時：後期 火曜日 3講時 1 1 1 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：国際環境資源政策論講座 劉 庭秀、青木 俊明

科目ナンバリング：KIC-OS0706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

環境資源政策論特別講義B

Special Lectures on Environment and Resources Policy B

2. 授業の目的と概要：

環境資源政策に関する研究を進める上で重要な文献や事例を取り上げ、それらの背景や問題意識、手法上の特徴、意義や課題等について調査・検証する。取り上げる文献及び事例については、履修者の人数や関心に応じて、教員ないし学生の提案に基づいて選定する。特別講義Bにおいては、環境資源政策と技術開発の関わり等について取り上げる予定。

This course examines the backgrounds, methodologies, significance, and challenges of the liter

3. 学習の到達目標：

環境資源政策に関する研究を進める上での問題意識、視点、手法の幅を広げる。とりわけ、現在の主たる研究対象以外の隣接分野も含め、幅広いトピックについて認識を深め、領域横断的な視野を習得する。

Students are expected to broaden their perspectives and methodologies for research on environment and resources policy. In particular, they will strengthen inte

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 -

1. イントロダクション

Introduction

2. 基礎文献の購読

Basic literature

3. 基礎文献の購読

Basic literature

4. 基礎文献の購読

Basic literature

5. 対象事例の選定・調査内容の設定

Selection of cases and research topics

6. 関連文献の講読・比較検討

Comparative analysis of related literature

7. 関連文献の講読・比較検討

Comparative analysis of related literature

8. 関連文献の講読・比較検討

Comparative analysis of related literature

9. 事例研究の中間発表

Interim presentations on case studies

10. 関連文献の講読・比較考察

Comparative analysis of related literature

11. 関連文献の講読・比較考察

Comparative analysis of related literature

12. 関連文献の講読・比較考察

Comparative analysis of related literature

13. 研究成果の発表

Presentations

14. 研究成果の発表

Presentations

15. 研究成果の発表

Presentations

試験 -

5. 成績評価方法：

授業への出席・参加（20%）、発表（30%）、学期末レポート（50%）

Participation (20%), Presentation (30%), Term paper (50%)

6. 教科書および参考書：

授業において適宜参考文献リストを配布。

Reference lists will be shown in the class as needed.

7. 授業時間外学習：

関連する研究会やシンポジウム、学会に積極的に参加し、情報収集を行う。

Students are encouraged to participate in relevant workshops, symposiums, or academic conferences.

8. その他：

多文化共生論特別演習 A

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS707J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論の基礎と発展(3)-A Basis and development of studies on multiculturalism (3)-A

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける Students will acquire basic knowledge and necessary methods for studying on multiculturalism and preparing for academic papers.

3. 学習の到達目標：

① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱いかたを学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。The aim of this course is to understand 1)how academic works should be, 2) characteristics of studies on multiculturalism, 3) methods of sett

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 1名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。Students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and all participants will discuss them.

1. オリエンテーションと発表予定の作成 Orientation
2. 修士論文執筆状況の発表（前期2年次）Presentations by MC second-year students
3. 博士論文執筆状況の発表（後期2・3年次）Presentations by DC second/third-year students
4. 研究テーマの発表（後期1年次）Presentations by DC first-year students
5. 研究テーマの発表（前期1年次）Presentations by MC first-year students
6. 修士論文仮題目の発表（1）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as preparing for the “Master’s Thesis Plan”
7. 修士論文仮題目の発表（2）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as preparing for the “Master’s Thesis Plan”
8. 研究題目の発表（1）（前期・後期1年次）Presentations by MC/DC first-year students as preparing for the “Research Title Form”
9. 研究題目の発表（2）（前期・後期1年次）Presentations by MC/DC first-year students as preparing for the “Research Title Form”
10. 博士論文中間発表会題目の発表（後期2年次）Presentations by DC socond-year students as preparing for the “Interim Presentation of Doctoral Thesis”
11. 博士論文題目の発表（後期3年次）Presentations by DC third-year students as preparing for the “Doctoral Thesis Title Registration Form”
12. 博士論文中間発表会の予行演習（後期2年次）Presentations by DC socond-year students as rehearsals for the “Interim Presentation of Doctoral Thesis”
13. 修士論文構想発表会の予行演習（前期2年次）Presentations by MC second-year students as rehearsals for the “Presentation of the Master’s Thesis Plan”
14. 研究題目発表会の予行演習（前期・後期1年次）Presentations by MC/DC first-year students as rehearsals for the “Presentation of the Research Title”
15. 博士論文草稿発表会の予行演習（後期3年次）Presentations by DC third-year students as rehearsals for the “Presentation of a Doctoral Thesis Draft”

試験 発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

5. 成績評価方法：

発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions on those of the others.

8. その他：

発表の1週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to send a handout of the presentation to all lecturers and the other students a week before the presentation. Office hours: Make an appointment in advance via

多文化共生論特別演習B

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS707J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論の基礎と発展(3)-B Basis and development of studies on multiculturalism (3)-B

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論という学問の特質、研究対象、研究方法の基礎を学び、受講者それぞれの問題意識をもとに、教員全員による研究・論文作成の指導を受ける。Students will acquire basic knowledge and necessary methods for studying on multiculturalism and preparing for academic papers.

3. 学習の到達目標：

① 学問とは何かを、また学術論文を書くとはどういう行為であるかを理解する。② 多文化共生論という学問の特質を理解する。③ 問題の設定のしかたを学ぶ。④ 資料の収集や扱い方を学ぶ。⑤ 論文の作成に必要なさまざまな知識を修得する。The aim of this course is to understand 1)how academic works should be, 2) characteristics of studies on multiculturalism, 3) methods of sett

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 1名ないし数名の学生がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて教員・学生全員で質問・討論を行う。Students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and all participants will discuss them.

1. オリエンテーションと発表予定の作成 Orientation

2. 博士論文執筆状況の発表（1）（後期3年次）Presentations by DC third-year students

3. 研究内容と進捗状況の発表（1）（前期1年次）Presentations by MC first-year students

4. 研究内容と進捗状況の発表（2）（後期1・2年次）Presentations by DC first/second-year students

5. 博士論文執筆状況の発表（2）（後期3年次）Presentations by DC third-year students

6. 修士論文題目の発表（1）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as preparing for the “Master’s Thesis Title Form”

7. 修士論文題目の発表（2）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as preparing for the “Master’s Thesis Title Form”

8. 修士論文執筆状況の発表（1）（前期2年次）Presentations by MC second-year students

9. 修士論文執筆状況の発表（2）（前期2年次）Presentations by MC second-year students

10. 研究内容と進捗状況の紹介（1）（前期1年次）Presentations by MC first-year students

11. 研究内容と進捗状況の紹介（2）（前期1年次）Presentations by MC first-year students

12. 研究内容と進捗状況の紹介（3）（後期1・2年次）Presentations by DC first/second-year students

13. 研究内容と進捗状況の紹介（4）（後期1・2年次）Presentations by DC first/second-year students

14. 修士論文発表会の予行演習（1）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as rehearsals for the “Presentation of the Master’s Thesis”

15. 修士論文発表会の予行演習（2）（前期2年次）Presentations by MC second-year students as rehearsals for the “Presentation of the Master’s Thesis”

試験 発表や討論の状況やレポートなどで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

5. 成績評価方法：

発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。Evaluation is performed comprehensively based on presentations, participation in discussion and reports etc.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions on those of the others.

8. その他：

発表の1週間前に原稿を演習に参加する教員と学生にメール添付ファイルで配布すること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to send a handout of the presentation to all lecturers and the other students a week before the presentation. Office hours: Make an appointment in advance via

多文化共生論特別研究A

曜日・講時：前期 金曜日 2講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS708J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論研究の実践（3）-A Practice of studies on multiculturalism (3)-A

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論研究の具体的方法論を習得し、論述の作法を学ぶ。学生個々人のテーマに即して指導教員が個別指導をする。Students will receive individualized instruction by academic supervisors to acquire necessary methods and skills for studies on multiculturalism.

3. 学習の到達目標：

①多文化共生論の実際の研究方法を理解する。②それぞれの学生のテーマに基づいて、論述を展開するための実践的な方法を学ぶ。

The aim of this course is to understand how to practice necessary methods and skills for studies on multiculturalism.

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 個々の学生が現在取り組んでいるテーマについて教員と討論をして、理解と推論を深める。Every student will discuss their research topics with supervisors to deepen their understanding.

1. オリエンテーションと予定の作成 Orientation

2. 個別またはグループによる研究指導(1)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)

3. 個別またはグループによる研究指導(2)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)

4. 個別またはグループによる研究指導(3)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)

5. 個別またはグループによる研究指導(4)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)

6. 個別またはグループによる研究指導(5)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)

7. 個別またはグループによる研究指導(6)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)

8. 個別またはグループによる研究指導(7)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)

9. 個別またはグループによる研究指導(8)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)

10. 個別またはグループによる研究指導(9)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)

11. 個別またはグループによる研究指導(10)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

12. 個別またはグループによる研究指導(11)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)

13. 個別またはグループによる研究指導(12)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)

14. 個別またはグループによる研究指導(13)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)

15. 個別またはグループによる研究指導(14)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)

試験 教員とのテーマごとの分析や検討の状況などで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations and participation in discussion etc.

5. 成績評価方法：

平常点による。Evaluation is performed comprehensively based on presentations and participation in discussion etc.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。References will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

研究上の問題点を整理して提示する準備を整える。教員と共同の検討の成果を研究にフィードバックさせる。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions.

8. その他：

事前に検討するテーマと問題点を教員に伝えること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to inform their supervisors of the topics and the problems to discuss in advance. Office hours: Make an appointment via e-mail or other means. Students can email their questio

多文化共生論特別研究B

曜日・講時：後期 金曜日 2講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS708J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論研究の実践（3）-B Practice of studies on multiculturalism (3)-B

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論研究の具体的方法論を習得し、論述の作法を学ぶ。学生個々人のテーマに即して指導教員が個別指導をする。Students will receive individualized instruction by academic supervisors to acquire necessary methods and skills for studies on multiculturalism.

3. 学習の到達目標：

①多文化共生論の実際の研究方法を理解する。②それぞれの学生のテーマに基づいて、論述を展開するための実践的な方法を学ぶ。

The aim of this course is to understand how to practice necessary methods and skills for studies on multiculturalism.

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 個々の学生が現在取り組んでいるテーマについて教員と討論をして、理解と推論を深める。Every student will discuss their research topics with supervisors to deepen their understanding.

1. オリエンテーションと予定の作成 Orientation

2. 個別またはグループによる研究指導(1)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)

3. 個別またはグループによる研究指導(2)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)

4. 個別またはグループによる研究指導(3)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)

5. 個別またはグループによる研究指導(4)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)

6. 個別またはグループによる研究指導(5)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)

7. 個別またはグループによる研究指導(6)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)

8. 個別またはグループによる研究指導(7)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)

9. 個別またはグループによる研究指導(8)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)

10. 個別またはグループによる研究指導(9)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)

11. 個別またはグループによる研究指導(10)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

12. 個別またはグループによる研究指導(11)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)

13. 個別またはグループによる研究指導(12)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)

14. 個別またはグループによる研究指導(13)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)

15. 個別またはグループによる研究指導(14)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)

試験 教員とのテーマごとの分析や検討の状況などで試験に代える。Evaluation is performed comprehensively based on presentations and participation in discussion etc.

5. 成績評価方法：

平常点による。Evaluation is performed comprehensively based on presentations and participation in discussion etc.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。References will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

研究上の問題点を整理して提示する準備を整える。教員と共同の検討の成果を研究にフィードバックさせる。Students are required to prepare for their own presentations and the discussions.

8. その他：

事前に検討するテーマと問題点を教員に伝えること。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。Students are required to inform their supervisors of the topics and the problems to discuss in advance. Office hours: Make an appointment via e-mail or other means. Students can email their questio

多文化共生論特別講義A

曜日・講時：前期 金曜日 3講時 107講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS709J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論の理論と実際（3）－A Theory and practice of studies on multiculturalism (3)-A

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論的アプローチの方法論的基礎を修得させるとともに、講座全教員がそれぞれの専門領域に即して、個別的・具体的な諸問題に取り組む際の研究の進め方を指導する。In this course, lecturers who study different fields from the perspective of multiculturalism will explain the current topics of their specialized fields, so that students can

3. 学習の到達目標：

①多文化共生論という学問について、その研究対象、研究方法の多様性を理解する。②それぞれの教員の講義内容から、個別的・具体的な問題に対処する方法を学ぶ。

The aim of this course is 1) to understand variety of subjects and methods of studies on multiculturalism as well as 2) to acquire academic methods to approach various subjects

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 教員が順に数回ずつ以下のテーマに基づいて講義を行う。Each lecturer provides four week lectures in an "omnibus" style.

1. オリエンテーション Orientation

2. インドの一元論思想：構造と現代的意義（1）山下博司 Indian Monism: Its Structure and Contemporary Significance (1) Hiroshi Yamashita

3. インドの一元論思想：構造と現代的意義（2）山下博司 Indian Monism: Its Structure and Contemporary Significance (2) Hiroshi Yamashita

4. インドの一元論思想：構造と現代的意義（3）山下博司 Indian Monism: Its Structure and Contemporary Significance (3) Hiroshi Yamashita

5. インドの一元論思想：構造と現代的意義（4）山下博司 Indian Monism: Its Structure and Contemporary Significance (4) Hiroshi Yamashita

6. 中東欧研究の現状と課題Ⅱ（1）佐藤雪野 Current Status and Issues of Central and East European Studies II (1) Yukino Sato

7. 中東欧研究の現状と課題Ⅱ（2）佐藤雪野 Current Status and Issues of Central and East European Studies II (2) Yukino Sato

8. 中東欧研究の現状と課題Ⅱ（3）佐藤雪野 Current Status and Issues of Central and East European Studies II (3) Yukino Sato

9. 中東欧研究の現状と課題Ⅱ（4）佐藤雪野 Current Status and Issues of Central and East European Studies II (4) Yukino Sato

10. 近代フランス詩を読むⅠ（1）坂巻康司 Lecture on Modern French Poetry (1) Koji Sakamaki

11. 近代フランス詩を読むⅠ（2）坂巻康司 Lecture on Modern French Poetry (2) Koji Sakamaki

12. 近代フランス詩を読むⅠ（3）坂巻康司 Lecture on Modern French Poetry (3) Koji Sakamaki

13. 近代フランス詩を読むⅠ（4）坂巻康司 Lecture on Modern French Poetry (4) Koji Sakamaki

14. 総括（1）Summary (1)

15. 総括（2）Summary (2)

試験 講義の中から関心を抱いたテーマについて、所定のレポートを提出することで試験に代える。Evaluation is based on a submitted report.

5. 成績評価方法：

レポートによる。Evaluation is based on a submitted report.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。Textbook and referendes will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

自分の研究にどのように応用できるかという観点から、配布される資料や自分のノートをよく読み、問題意識を持ち質問などを考える。Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion on the research topic.

8. その他：

レポートについては、引用の箇所と出典を明示するなど、研究倫理に準拠する内容と様式を求める。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。For writing the reports, students are required to comply with academic manners such as revealing the quoted sources etc. Office hours: Make an appointment via e-mail or other m

多文化共生論特別講義B

曜日・講時：後期 金曜日 3講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：多文化共生論講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-OHS709J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

多文化共生論の理論と実際（3）-B Theory and practice of studies on multiculturalism (3)-B

2. 授業の目的と概要：

多文化共生論的アプローチの方法論的基礎を修得させるとともに、講座全教員がそれぞれの専門領域に即して、個別的・具体的な諸問題に取り組む際の研究の進め方を指導する。In this course, lecturers who study different fields from the perspective of multiculturalism will explain the current topics of their specialized fields, so that students can

3. 学習の到達目標：

①多文化共生論という学問について、その研究対象、研究方法の多様性を理解する。②それぞれの教員の講義内容から、個別的・具体的な問題に対処する方法を学ぶ。

The aim of this course is 1) to understand variety of subjects and methods of studies on multiculturalism as well as 2) to acquire academic methods to approach various subjects

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 教員が順に数回ずつ以下のテーマに基づいて講義を行う。Each lecturer provides four week lectures in an "omnibus" style.

1. オリエンテーション Orientation
2. イギリス・ロマン派詩 (1) 石幡直樹 British Romantic Poetry(1) Naoki Ishihata
3. イギリス・ロマン派詩 (2) 石幡直樹 British Romantic Poetry(2) Naoki Ishihata
4. イギリス・ロマン派詩 (3) 石幡直樹 British Romantic Poetry(3) Naoki Ishihata
5. イギリス・ロマン派詩 (4) 石幡直樹 British Romantic Poetry(4) Naoki Ishihata
6. 共生思想を探る II (1) 佐藤透 Inquiry into the idea of Co-existence II (1) Toru Sato
7. 共生思想を探る II (2) 佐藤透 Inquiry into the idea of Co-existence II (2) Toru Sato
8. 共生思想を探る II (3) 佐藤透 Inquiry into the idea of Co-existence II (3) Toru Sato
9. 共生思想を探る II (4) 佐藤透 Inquiry into the idea of Co-existence II (4) Toru Sato
10. 邦画のなかの在日朝鮮人 (1) 藤田恭子 Representations of Korean Minority in Japanese Movies (1)
11. 邦画のなかの在日朝鮮人 (2) 藤田恭子 Representations of Korean Minority in Japanese Movies (2)
12. 邦画のなかの在日朝鮮人 (3) 藤田恭子 Representations of Korean Minority in Japanese Movies (3)
13. 邦画のなかの在日朝鮮人 (4) 藤田恭子 Representations of Korean Minority in Japanese Movies (4)
14. 総括 (1) Summary (1)
15. 総括 (2) Summary (2)

試験 講義の中から関心を抱いたテーマについて、所定のレポートを提出することで試験に代える。Evaluation is based on a submitted report.

5. 成績評価方法：

レポートによる。Evaluation is based on a submitted report.

6. 教科書および参考書：

授業中に適宜指示する。Textbook and references will be designated in the course.

7. 授業時間外学習：

自分の研究にどのように応用できるかという観点から、配布される資料や自分のノートをよく読み、問題意識を持ち質問などを考える。Students are required to read designated material in advance and to prepare for their active participation in the discussion on the research topic.

8. その他：

レポートについては、引用の箇所と出典を明示するなど、研究倫理に準拠する内容と様式を求める。オフィスアワーはメールでの予約制とする。質問はメールでも受け付ける。For writing the reports, students are required to comply with academic manners such as revealing the quoted sources etc. Office hours: Make an appointment via e-mail or other m

言語科学研究特別演習 A

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学研究の方法と実践(9)
Methodology and Practice in Language Science (9)

2. 授業の目的と概要：

受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟して、博士論文を完成し、各種学会で発表する能力を育む。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. T

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、主として次のような研究に必要な方法や技術を学ぶ。

- 1 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。
- 2 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。
- 3 適切なデータを収集し、分析すること。
- 4 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。
- 5 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。

In this course the students will acquire the necessary method

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめに発表スケジュールを発表する。

The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.

1. 学生による発表とそれに関する討論 1

Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.

2. 学生による発表とそれに関する討論 2.

Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.

3. 学生による発表とそれに関する討論 3.

Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.

4. 学生による発表とそれに関する討論 4.

Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.

5. 学生による発表とそれに関する討論 5.

Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.

6. 学生による発表とそれに関する討論 6.

Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.

7. 学生による発表とそれに関する討論 7.

Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.

8. 学生による発表とそれに関する討論 8.

Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.

9. 学生による発表とそれに関する討論 9.

Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.

10. 学生による発表とそれに関する討論 10.

Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.

11. 学生による発表とそれに関する討論 11.

Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.

12. 学生による発表とそれに関する討論 12.

Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.

13. 学生による発表とそれに関する討論 13.

Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.

14. 学生による発表とそれに関する討論 14.

Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.

15. 学生による発表とそれに関する討論 15.

Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.

試験 この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。

In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. There

5. 成績評価方法：

口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。

Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書：

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。

No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習：

学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、またパワーポイントスライドを準備する。

The students have to prepare the presentation on the designated day, including PPT slides.

8. その他：

なし
Nothing

言語科学研究特別演習B

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時 M6 0 1 大ホール右

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN701J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学研究の方法と実践(10)
Methodology and Practice in Language Science (10)

2. 授業の目的と概要：

受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議する。これにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟して、博士論文を完成し、各種学会で発表する能力を育む。
In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. T

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、主として次のような研究に必要な方法や技術を学ぶ。
1 研究テーマを設定し、そのテーマに関する先行研究を批判的に検討すること。
2 設定した問題に対する解決方法を論理的に構成すること。
3 適切なデータを収集し、分析すること。
4 研究結果をまとめ、説得力をもった発表を行うこと。
5 他の受講者の発表を正確に理解し、批評的かつ建設的に評価すること。
In this course the students will acquire the necessary method

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめに発表スケジュールを発表する。
The schedule of the student presentations will be announced by the beginning of the course.
1. 学生による発表とそれに関する討論 1
Presentations by the 1st and 2nd students, after each of which there will be a discussion by all.
2. 学生による発表とそれに関する討論 2.
Presentations by the 3rd and 4th students, after each of which there will be a discussion by all.
3. 学生による発表とそれに関する討論 3.
Presentations by the 5th and 6th students, after each of which there will be a discussion by all.
4. 学生による発表とそれに関する討論 4.
Presentations by the 7th and 8th students, after each of which there will be a discussion by all.
5. 学生による発表とそれに関する討論 5.
Presentations by the 9th and 10th students, after each of which there will be a discussion by all.
6. 学生による発表とそれに関する討論 6.
Presentations by the 11th and 12th students, after each of which there will be a discussion by all.
7. 学生による発表とそれに関する討論 7.
Presentations by the 13th and 14th students, after each of which there will be a discussion by all.
8. 学生による発表とそれに関する討論 8.
Presentations by the 15th and 16th students, after each of which there will be a discussion by all.
9. 学生による発表とそれに関する討論 9.
Presentations by the 17th and 18th students, after each of which there will be a discussion by all.
10. 学生による発表とそれに関する討論 10.
Presentations by the 19th and 20th students, after each of which there will be a discussion by all.
11. 学生による発表とそれに関する討論 11.
Presentations by the 21st and 22nd students, after each of which there will be a discussion by all.
12. 学生による発表とそれに関する討論 12.
Presentations by the 23rd and 24th students, after each of which there will be a discussion by all.
13. 学生による発表とそれに関する討論 13.
Presentations by the 25th and 26th students, after each of which there will be a discussion by all.
14. 学生による発表とそれに関する討論 14.
Presentations by the 27th and 28th students, after each of which there will be a discussion by all.
15. 学生による発表とそれに関する討論 15.
Presentations by the 29th and 30th students, after each of which there will be a discussion by all.

試験 この授業は受講者がそれぞれの研究テーマに即した発表を行い、それについて参加者全員で討議することにより、言語科学分野における研究の方法論や発表の仕方などに習熟することを目的とするので試験は行わない。
In this course the students will make presentations on their research topics, one or a couple of students per week, and the others will discuss them. There

5. 成績評価方法：

口頭発表および授業中の討議への参加を評価する。
Evaluation will be based on the presentation and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書：

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。
No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習：

学生は自分の発表予定日に向けて先行研究や自分の論考を分かりやすくまとめ、またパワーポイントスライドを準備する。
The students have to prepare the presentation on the designated day, including PPT slides.

8. その他：

なし
Nothing

言語科学研究特別研究A

曜日・講時：前期 火曜日 6講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学分野における個別研究指導(5)
Individual Research Guidance in Language Science(5)

2. 授業の目的と概要：

各受講者あるいは受講者グループの研究トピックやそれに関連する事項について専門的な考察・検討を行う。これにより、博士論文執筆や学会発表に向けて個別的な指導を受けることを目的とする。

In this course the students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and at the same time they will get individual research

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、各自の研究トピックや関連する事項についての理解を深め、文献調査・研究発表・博士論文執筆などの方法に熟達する。

In this course the students will deepen their understanding of their own research topics and matters related to them, and master the necessary skills and ability for literature examination

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめにスケジュールを発表する。

The schedule of the course will be announced at the beginning of the course.

1. 個別またはグループによる研究指導(1)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)

2. 個別またはグループによる研究指導(2)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)

3. 個別またはグループによる研究指導(3)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)

4. 個別またはグループによる研究指導(4)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)

5. 個別またはグループによる研究指導(5)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)

6. 個別またはグループによる研究指導(6)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)

7. 個別またはグループによる研究指導(7)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)

8. 個別またはグループによる研究指導(8)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)

9. 個別またはグループによる研究指導(9)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)

10. 個別またはグループによる研究指導(10)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

11. 個別またはグループによる研究指導(11)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)

12. 個別またはグループによる研究指導(12)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)

13. 個別またはグループによる研究指導(13)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)

14. 個別またはグループによる研究指導(14)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)

15. 個別またはグループによる研究指導(15)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (15)

試験 試験は行わず、評価は下記の方法で行う。

The students will have no examination.

5. 成績評価方法：

受講者各自の研究についての発表、関連文献の理解、討議への参加を総合的に評価する。

Evaluation will be based on each student's presentation of their research, understanding of the relevant literature, and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書：

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。

No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習：

学生は個別またはグループによる研究指導を受けるために必要な準備を行う。

The students will make necessary preparation for the course.

8. その他：

なし

Nothing

言語科学研究特別研究B

曜日・講時：後期 火曜日 6講時 109講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN702J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学分野における個別研究指導(6)
Individual Research Guidance in Language Science(6)

2. 授業の目的と概要：

各受講者あるいは受講者グループの研究トピックやそれに関連する事項について専門的な考察・検討を行う。これにより、博士論文執筆や学会発表に向けて個別的な指導を受けることを目的とする。

In this course the students professionally consider the issues on their research topics and related matters, and at the same time they will get individual research

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、各自の研究トピックや関連する事項についての理解を深め、文献調査・研究発表・博士論文執筆などの方法に熟達する。

In this course the students will deepen their understanding of their own research topics and matters related to them, and master the necessary skills and ability for literature examination

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめにスケジュールを発表する。

The schedule of the course will be announced at the beginning of the course.

1. 個別またはグループによる研究指導(1)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (1)

2. 個別またはグループによる研究指導(2)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (2)

3. 個別またはグループによる研究指導(3)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (3)

4. 個別またはグループによる研究指導(4)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (4)

5. 個別またはグループによる研究指導(5)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (5)

6. 個別またはグループによる研究指導(6)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (6)

7. 個別またはグループによる研究指導(7)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (7)

8. 個別またはグループによる研究指導(8)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (8)

9. 個別またはグループによる研究指導(9)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (9)

10. 個別またはグループによる研究指導(10)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (10)

11. 個別またはグループによる研究指導(11)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (11)

12. 個別またはグループによる研究指導(12)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (12)

13. 個別またはグループによる研究指導(13)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (13)

14. 個別またはグループによる研究指導(14)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (14)

15. 個別またはグループによる研究指導(15)

Guidance and discussion on the students' research topics, individually or in a group (15)

試験 試験は行わず、評価は下記の方法で行う。

The students will have no examination.

5. 成績評価方法：

受講者各自の研究についての発表、関連文献の理解、討議への参加を総合的に評価する。

Evaluation will be based on each student's presentation of their research, understanding of the relevant literature, and participation in the discussion.

6. 教科書および参考書：

使用しない。必要な場合は授業中に指示する。

No textbooks will be used, although some literature might be recommended in the course if necessary.

7. 授業時間外学習：

学生は個別またはグループによる研究指導を受けるために必要な準備を行う。

The students will make necessary preparation for the course.

8. その他：

なし

Nothing

言語科学研究特別講義A

曜日・講時：前期 月曜日 2講時 207講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学諸分野に関する専門的研究 (5)
Specific Researches in Language Science (5)

2. 授業の目的と概要：

授業担当者の専門分野に関して講義や受講者による文献紹介などを含めた討議を行う。これにより、当該専門分野における高度な知識を得ることを目的とする。

In this course the students will get a deep understanding on the topics selected by the instructors. Each session will consist of a lecture by an instructor and/or oral presentatio

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、扱われる専門分野についてのより高度な知識を得るとともに、それを自身の研究に役立てる。

In this course the students will get a deep understanding on the topics treated in each session, so that they can incorporate the obtained knowledge and insight into their own research.

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめにスケジュールを発表する。

The schedule and the main topics of the course will be announced at the beginning of the course.

1. 導入：講師1～講師4による講義の概要

Outlines of the lectures by the four instructors.

2. 講師1による講義とそれに関する討論(1)

Lecture 1 by the 1st instructor and discussion on the topic.

3. 講師1による講義とそれに関する討論(2)

Lecture 2 by the 1st instructor and discussion on the topic.

4. 講師1による講義とそれに関する討論(3)

Lecture 3 by the 1st instructor and discussion on the topic.

5. 講師2による講義とそれに関する討論(1)

Lecture 1 by the 2nd instructor and discussion on the topic.

6. 師2による講義とそれに関する討論(2)

Lecture 2 by the 2nd instructor and discussion on the topic.

7. 講師2による講義とそれに関する討論(3)

Lecture 3 by the 2nd instructor and discussion on the topic.

8. 講師2による講義とそれに関する討論(4)

Lecture 4 by the 2nd instructor and discussion on the topic.

9. 講師3による講義とそれに関する討論(1)

Lecture 1 by the 3rd instructor and discussion on the topic.

10. 講師3による講義とそれに関する討論(2)

Lecture 2 by the 3rd instructor and discussion on the topic.

11. 講師3による講義とそれに関する討論(3)

Lecture 3 by the 3rd instructor and discussion on the topic.

12. 講師4による講義とそれに関する討論(1)

Lecture 1 by the 4th instructor and discussion on the topic.

13. 講師4による講義とそれに関する討論(2)

Lecture 2 by the 4th instructor and discussion on the topic.

14. 講師4による講義とそれに関する討論(3)

Lecture 3 by the 4th instructor and discussion on the topic.

15. 講師4による講義とそれに関する討論(4)

Lecture 4 by the 4th instructor and discussion on the topic.

試験 成績評価は各講師の各学生に対する評価を総合して決定されるが、各講師の評価が試験によるかそれ以外の方法によるかは各講師より発表される。

Evaluation will be determined by summing up the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, the participation in the discussion, assigned reports, and exams

5. 成績評価方法：

出席を含めた授業中の討議への参加や教員から与えられた課題に関する成果を総合的に評価する。

Evaluation will be determined by adding the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, participation in the discussion, assigned reports, and/or exams. Details will be announced

6. 教科書および参考書：

各講師が必要に応じて授業中に指示する。

Necessary literature will be designated in the course by each instructor.

7. 授業時間外学習：

各講師が必要に応じて授業中に指示する。

Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.

8. その他：

なし

Nothing

言語科学研究特別講義B

曜日・講時：後期 水曜日 3講時 1 1 3講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：言語科学研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN703J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

言語科学諸分野に関する専門的研究 (6)
Specific Researches in Language Science (6)

2. 授業の目的と概要：

授業担当者の専門分野に関して講義や受講者による文献紹介などを含めた討議を行う。これにより、当該専門分野における高度な知識を得ることを目的とする。

In this course the students will get a deep understanding on the topics selected by the instructors. Each session will consist of a lecture by an instructor and/or oral presentatio

3. 学習の到達目標：

受講者はこの授業を通して、扱われる専門分野についてのより高度な知識を得るとともに、それを自身の研究に役立てる。

In this course the students will get a deep understanding on the topics treated in each session, so that they can incorporate the obtained knowledge and insight into their own research.

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学期のはじめにスケジュールを発表する。

The schedule and the main topics of the course will be announced at the beginning of the course.

1. 導入：講師5～講師8による講義の概要

Outlines of the lectures by the four instructors.

2. 講師5による講義とそれに関する討議(1)

Lecture 1 by the 5th instructor and discussion on the topic.

3. 講師5による講義とそれに関する討議(2)

Lecture 2 by the 5th instructor and discussion on the topic.

4. 講師5による講義とそれに関する討議(3)

Lecture 3 by the 5th instructor and discussion on the topic.

5. 講師6による講義とそれに関する討議(1)

Lecture 1 by the 6th instructor and discussion on the topic.

6. 講師6による講義とそれに関する討議(2)

Lecture 2 by the 6th instructor and discussion on the topic.

7. 講師6による講義とそれに関する討議(3)

Lecture 3 by the 6th instructor and discussion on the topic.

8. 講師6による講義とそれに関する討議(4)

Lecture 4 by the 6th instructor and discussion on the topic.

9. 講師7による講義とそれに関する討議(1)

Lecture 1 by the 7th instructor and discussion on the topic.

10. 講師7による講義とそれに関する討議(2)

Lecture 2 by the 7th instructor and discussion on the topic.

11. 講師7による講義とそれに関する討議(3)

Lecture 3 by the 7th instructor and discussion on the topic.

12. 講師8による講義とそれに関する討議(1)

Lecture 1 by the 8th instructor and discussion on the topic.

13. 講師8による講義とそれに関する討議(2)

Lecture 2 by the 8th instructor and discussion on the topic.

14. 講師8による講義とそれに関する討議(3)

Lecture 3 by the 8th instructor and discussion on the topic.

15. 講師8による講義とそれに関する討議(4)

Lecture 4 by the 8th instructor and discussion on the topic.

試験 成績評価は各講師の各学生に対する評価を総合して決定されるが、各講師の評価が試験によるかそれ以外の方法によるかは各講師より発表される。

Evaluation will be determined by summing up the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, the participation in the discussion, assigned reports, and exams

5. 成績評価方法：

出席を含めた授業中の討議への参加や教員から与えられた課題に関する成果を総合的に評価する。

Evaluation will be determined by adding the grades given by the instructors, which will be based on class attendance, participation in the discussion, assigned reports, and/or exams. Details will be announced

6. 教科書および参考書：

各講師が必要に応じて授業中に指示する。

Necessary literature will be designated in the course by each instructor.

7. 授業時間外学習：

各講師が必要に応じて授業中に指示する。

Necessary task or work will be designated in the course by each instructor.

8. その他：

なし

Nothing

応用言語研究特別演習 A

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

応用言語研究演習(A)

2. 授業の目的と概要：

応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。

3. 学習の到達目標：

応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせる。授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得をめざす。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(1)

3. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(2)

4. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(3)

5. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(4)

6. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(1)

7. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(2)

8. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(3)

9. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(4)

10. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(1)

11. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(2)

12. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(3)

13. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(4)

14. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(5)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法：

授業での発表や討議等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で指示する。

8. その他：

応用言語研究特別演習 B

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN704J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

応用言語研究演習(B)

2. 授業の目的と概要：

応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得する。

3. 学習の到達目標：

応用言語研究分野において研究、口頭発表、論文作成するための高度な力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 学生の研究テーマに応じて、個別的指導、集団的指導、各種発表会を適宜組み合わせる。授業を進め、応用言語研究分野における研究、口頭発表、論文作成のための高度な知識と方法を習得をめざす。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(1)

3. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(2)

4. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(3)

5. 応用言語研究分野における研究のための高度な知識と方法(4)

6. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(1)

7. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(2)

8. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(3)

9. 応用言語研究分野における口頭発表のための高度な知識と方法(4)

10. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(1)

11. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(2)

12. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(3)

13. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(4)

14. 応用言語研究分野における論文作成のための高度な知識と方法(5)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法：

授業での発表や討議等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で指示する。

8. その他：

応用言語研究特別研究A

曜日・講時：前期 火曜日 6 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

応用言語研究特別研究(A)

2. 授業の目的と概要：

応用言語研究分野において博士論文を作成するために基礎的な指導をおこなう。

3. 学習の到達目標：

応用言語研究分野において博士論文を作成するための基礎を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 応用言語研究分野において博士論文を作成するための基礎を身につけるために指導していく。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(1)

3. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(2)

4. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(3)

5. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(4)

6. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(5)

7. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(6)

8. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(7)

9. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(8)

10. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(9)

11. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(10)

12. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(11)

13. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(12)

14. 応用言語研究分野における博士論文作成の基礎(13)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法：

研究の進捗等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で指示する。

8. その他：

応用言語研究特別研究B

曜日・講時：後期 火曜日 6 講時 1 1 3 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN705J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

応用言語研究特別研究(B)

2. 授業の目的と概要：

応用言語研究分野において博士論文を作成するために指導をおこなう。

3. 学習の到達目標：

応用言語研究分野において博士論文を作成するための力を身につける。

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 応用言語研究分野において博士論文を作成するための力を身につけるために指導していく。

1. オリエンテーション

2. 応用言語研究分野における博士論文作成(1)

3. 応用言語研究分野における博士論文作成(2)

4. 応用言語研究分野における博士論文作成(3)

5. 応用言語研究分野における博士論文作成(4)

6. 応用言語研究分野における博士論文作成(5)

7. 応用言語研究分野における博士論文作成(6)

8. 応用言語研究分野における博士論文作成(7)

9. 応用言語研究分野における博士論文作成(8)

10. 応用言語研究分野における博士論文作成(9)

11. 応用言語研究分野における博士論文作成(10)

12. 応用言語研究分野における博士論文作成(11)

13. 応用言語研究分野における博士論文作成(12)

14. 応用言語研究分野における博士論文作成(13)

15. まとめ

試験 実施しない。

5. 成績評価方法：

研究の進捗等によって総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：

必要に応じて指示する。

7. 授業時間外学習：

授業で指示する。

8. その他：

応用言語研究特別講義A

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

論文作成ワークショップ A

2. 授業の目的と概要：

研究論文の執筆作法、投稿作法を実践的に学ぶ。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行い、論文を完成させる。

3. 学習の到達目標：

- 1) 論文の基本的な執筆作法・投稿作法が説明できる。
- 2) 論文を批判的・分析的に読み、執筆者に建設的なフィードバックを行うことができる。
- 3) フィードバックを踏まえて、論理的な研究論文を作成することができる

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 演習形式で実施する。

1. オリエンテーション
2. 論文の投稿と査読システム
3. 指定論文の検討
4. 受講生の草稿のピアレビュー
5. 受講生の草稿のピアレビュー
6. 受講生の草稿のピアレビュー
7. 受講生の草稿のピアレビュー
8. 受講生の草稿のピアレビュー
9. 受講生の草稿のピアレビュー
10. 受講生の草稿のピアレビュー
11. 受講生の草稿のピアレビュー
12. 受講生の草稿のピアレビュー
13. 受講生の草稿のピアレビュー
14. 受講生の草稿のピアレビュー
15. まとめ

試験 試験は実施しない。

5. 成績評価方法：

課題 1：指定論文へのコメント 10%、課題 2：査読 30%、課題 3：発表（草稿の提出と査読への回答） 30%

課題 4：修正論文の提出 10%、授業参加度 20%

6. 教科書および参考書：

参考書

- ・アメリカ心理学会（2011）『APA 論文作成マニュアル第 2 版』医学書院
- ・酒井聡樹（2006）『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』 共立出版
- ・Estelle, P. & Derek, P. (2010). How to get a PhD: A handbook for students and their supervisors. (5th ed.) Berkshire, England: Open University Press（*第 4 版の和訳：角谷快彦訳（2010）『

7. 授業時間外学習：

授業時間外の課題の提出には ISTU を用いる。

8. その他：

指定論文や詳しい進行予定は、1 回目の講義時に連絡する。

応用言語研究講座の教員を指導教員とする学生（M2 以上）の聴講を歓迎する（ただし、課題 1、2 を正規の受講生同様に行うことを期待する）。

応用言語研究特別講義B

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時 109 講義室

科目群：大学院専門科目-国際文化研究科専門科目（DC），単位数：2

担当教員（所属）：応用言語研究講座 講座全教員

科目ナンバリング：KIC-LIN706J，使用言語：日本語

1. 授業題目：

論文作成ワークショップ B

2. 授業の目的と概要：

研究論文の執筆作法、投稿作法を実践的に学ぶ。受講生自身の草稿に対してピアレビューを行い、論文を完成させる。

3. 学習の到達目標：

- 1) 論文の基本的な執筆作法・投稿作法が説明できる。
- 2) 論文を批判的・分析的に読み、執筆者に建設的なフィードバックを行うことができる。
- 3) フィードバックを踏まえて、論理的な研究論文を作成することができる

4. 授業の内容・目的・方法：

概要 演習形式で実施する。

1. オリエンテーション
2. 先行研究のまとめ方
3. 受講生の草稿のピアレビュー
4. 受講生の草稿のピアレビュー
5. 受講生の草稿のピアレビュー
6. 受講生の草稿のピアレビュー
7. 受講生の草稿のピアレビュー
8. 受講生の草稿のピアレビュー
9. 受講生の草稿のピアレビュー
10. 受講生の草稿のピアレビュー
11. 受講生の草稿のピアレビュー
12. 受講生の草稿のピアレビュー
13. 受講生の草稿のピアレビュー
14. 受講生の草稿のピアレビュー
15. まとめ

試験 試験は実施しない。

5. 成績評価方法：

課題 1：先行研究のまとめ 10%、課題 2：査読 30%、課題 3：発表（草稿の提出と査読への回答） 30%

課題 4：修正論文の提出 10%、授業参加度 20%

6. 教科書および参考書：

参考書

- ・アメリカ心理学会（2011）『APA 論文作成マニュアル第 2 版』医学書院
- ・大木秀一（2013）『看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん』医歯薬出版
- ・Langham, C. (2011). 『国際論文 English 査読・執筆ハンドブック』医歯薬出版

7. 授業時間外学習：

授業時間外の課題の提出には ISTU を用いる。

8. その他：

詳しい進行予定は、1 回目の講義時に連絡する。

応用言語研究講座の教員を指導教員とする学生（M2 以上）の聴講を歓迎する（ただし、課題 1、2 を正規の受講生同様に行うことを期待する）。